



学校インターンシップ

12日（水）から対面による授業開始に伴って、『学び続ける教師養成講座』に参加したり、教職課程センターに来室したりする方も多く、皆さんの元気そうな様子に安心しています。

さて、昨年度の教育実習は、新型コロナウイルスの関係で代替措置が取られました。代替措置の一つが、名取市立ゆりが丘小学校，那智が丘小学校，増田中学校の各校長先生，教職員の皆様のご理解とご協力を得て実施した「学校インターンシップ」です。現4年生の皆さんの中からも14名の方が参加し，教育実習とはまた一味違った学びを体験してきました。

学校インターンシップについては，2015年12月21日の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）」において，その必要性和重要性が次のように示されています。

②学校インターンシップの導入

教員養成系の学部や学科を中心に，教職課程の学生に，学校現場において教育活動や校務，部活動などに関する支援や補助業務など学校における諸活動を体験させるための学校インターンシップや学校ボランティアなどの取組が定着しつつある。

これらの取組は，学生が長期間にわたり継続的に学校現場等で体験的な活動を行うことで，学校現場をより深く知ることができ，既存の教育実習と相まって，理論と実践の往還による実践的指導力の基礎の育成に有効である。また，学生がこれからの教員に求められる資質を理解し，自らの教員としての適格性を把握するための機会としても有意義であるとする。さらに，学生を受け入れる学校側においても学校の様々な活動を支援する地域人材の確保の観点から有益であることが考えられる。

つまり，教師を目指す学生にとって，教育現場で経験を重ねる機会をもつことは重要であり，またそれは「実践的指導力」の育成に役立つであろうということを指摘しています。

学校インターンシップの必要性和重要性については，昨年度実際に経験した皆さんの感想からもうかがえます。



学級による雰囲気の違いや，先生方の授業の工夫などを学ぶことができた。教育実習では経験することがなかったプリントの丸付けや教材作成などもさせていただき，授業や，子供とのかかわり以外にも仕事が沢山あることを実感した。生徒指導に立ち会った場面では，先生が一方向的に話すのではなく，児童の発言から状況をとらえ，納得させながら解決へ導くことが大切だと学んだ。児童を一番に考えたかかわりを様々な場面で目にすることができた。

本年度も，宮城県教育委員会から「出身校等におけるインターンシップ」について案内が届いています。本学の場合は原則として4年生が対象になりますが，ぜひ多くの方が参加し，教師になるための実践的な学びを深めてほしいと考えます。

（教職課程センター 特任教授 佐藤 佳彦）